

童謡遊戯の振と表情について

戸 倉 ハ ル

前號に「童謡遊戯の振について。」と題し、ちよつと載せていたときましたから、今度は童謡遊戯の振の生命とまで云はれてをります表情について、少し述べさせていたときます。

表情とはどんなことか

表情とは情緒に伴なうて生ずる身體的變化で、一言にして申せば感情表示の状態であります。即ちわれ／＼の喜怒哀樂の感情が起つてきた時、之に伴なうて生ずる身體的變化をいふのであります。例へば嬉しい時には嬉しい顔付や、身振をしたりする様に、われ／＼の精神の變化が身體に影響して來るのであります。さうして、精神上の變化が強ければ強い程、身體にもそれ相當に強い變

化を起して來るのであります。かゝる精神作用、殊に感情に伴なつて起つて來る身體的變化を表情と申します。

表情の種類

表情の種類には、第一に、血液循環の變化、呼吸作用の變化、分泌排泄機能の變化等から來る内部的のものがあります。

例へば或る強烈な刺激に感激し、餘り滿面朱を濺いだやうに赤くなることがありますが、これは血液循環機能に變化を及ぼした爲めでありませう。

第二は、四肢、發音機、官、顔面等に起る外部的の變化でありまして、例へば多勢の前で初めて演説したり獨唱でもした場合聲が震へたり、出なくな

つたりしますのはこの類で、これは、發音機官に變化を起した一例であります。

表情の差異

表情は、年齢・性別・民族・教育等に依つて差異があります。以下各項にわけて略説することにいたします。

(1) 年齢

表情は、第一に年齢に依つて違つてまゐります。子供の時の表情は荒ぼくて、決して細かには出来ません。然し非常に強く大きく表はされます。この點は童謡遊戲の振の上に大に考へねばならぬところと思はれます。例へば泣く時には大きな聲を張り上げ、力一杯に顔を歪めて泣きますが大人にはさうした表情は出来ません。すべて表情は成人になるにつれて、だん／＼柔かに細かになつて來るのであります。

(2) 性別

男と女との表情を比べて見ますと非常に違つております、一般に女は感情を外部に表はし易いやうであります。

(3) 民族

世界中日本人ほど無表情の國民は無いとまで云はれてをります。これにはいろ／＼な原因があります。せうが茲には省くことにいたします。

英國人は稍々日本人に似てゐるところがあつて、矢張り表情には乏しい國民だと云はれてをります。

佛國人は尤て前者と反對で、豊かな表情を持つてをりまして、黙してをつても始終物を云つてゐるやうな態度があります。

獨逸人になりますと、全く無表情不格好で、滅多に感情を外に出さないとはいはれてをります。

伊太利人について申しますと、表情が餘程巧で、世界民族中一番美しい表情を持つてゐるといはれ

てをります。

以上は唯代表的民族の表情について述べましたが、もつと各國民について調べて見ると、餘程興味ある問題と思はれます。

(4) 教育

教育の有無は表情に非常な關係を持つてをります。教育の有るものゝ態度、顔附と、無いものゝそれとは、大へん違つてをります。一般に教育のあるものゝ表情は上品で柔かてありますが、教育の無いものゝ表情は下品で荒ぼいのであります。

感情と表情

感情と表情との關係については次の二説があります。私が私どもは最も穩當な第(2)説に従ふことが至當であると思はれます。

(1) ジエームス、ランケの説

この説では、表情が先になつて、然る後に感情が起るものだと主張してをるのであります。例へ

ばわれは可笑しいから笑ふのでなく、笑ふから可笑しい、即ち笑顔をするから可笑しくなるのであると云ふのであります。「悲しきが故に泣くにあらず、泣くが故に悲しきなり。」とはこの學説の主旨を語る有名な套語であります。

(2) 反對説

前の説に對しては、いろ／＼な異論があります。が、最も普通であり穩當といはれてをりますのは感情が先に起つて、然る後に表情が生ずるものであるといふ説であります。即ち嬉しいから喜び、悲しいから泣くといふ方であります。

靜的表情と無表情

人間には、靜的表情と無表情との域があります。表情は多くの場合身體の運動に依つて生ずるものであります。それならば靜止の時絶對に表情が無いかと申しますと、さうではありませぬ。口をきかない、全く靜止の時本當に生きた表情が表はれ

ることがあります。沈黙の美しい姿勢から言語よりも深い尊い聲なき聲を聞くことがあるではありませんか。更に進んで感情が眞に靈的に働いてゐる場合は、全く無表情ではありませんが、靈の活躍は十分に認められるのであります。

表情はどこに一番表はれるか

表情は身體のどんなところにも表はれますが、一番よく表はれるのは顔でありませう。顔にはたくさんの細筋があつてよく微妙に働くのであります。爲めにどんな小さい感情でも表はされるのであります。そこで顔面筋肉の運動が表情だとまで云つてゐる人もあります。而して顔の中でも、眼と口とが一番表情に關係がありますから、少し申し上げることにいたします。

眼の表情

眼の表情は大體視線の動きと眼の開きとで表はされます。

(1) 視線の動き方

視線が活潑に動く場合は心が活潑に働き、ごく鋭敏な精神を表はしてをります。精神疲労に陥つてゐるとか、又は無意識の状態て何等考への無い時はボンヤリとしたまなざしをしてをるのであります。

次に眼光であります。感情のゆつたりとしてゐる時は何んとなく柔か味があります。

視線が纏つて何か物を見詰めてゐる場合は精神上一種の力を示して居つて精神が或る物に集中してゐる時を示すのであります。之と反對に視線が纏らないで眼がフラ／＼してゐる場合は、注意散漫の状態か、又は物に恐れた時か、若しくは物に恥ぢた場合などに表はれるのであります。

更に視線の方向について申し上げます。視線が上向きで遠くを見詰めてゐる場合は、所謂冥想に耽つてゐる時であるとか或は宗教的境涯に置

かれた時などに多いのであります。

(2) 眼の開き

眼を大きく開いた場合は物に驚いたときとか、又は注意を集中した場合などに示す精神状態の表情であります。

次に眼を細くして眉間に皺を漂してゐる場合は、不愉快な情緒を示す表情であります。

口の表情

(1) 苦味を感じた場合

口を少し開いて、時々鼻翼を上げ不愉快な表情であります。

(2) 甘味を感じた場合

甘い物を嘗めた時の表情で快感な表情であります。

(3) 咬みしめた場合

口の角が少し下つて、何か決心をした表情であります。

(4) 酔っぱい場合

酔っぱい物を嘗めた時のやうな口付で泣顔を示すのであります。

以上顔面の表情について常識的に申し上げましたが尙ほ身體の表情についても研究するところがたくさんあると思はれます。要するにわれわれは現今盛んに行はれてゐる童謡遊戯振興の上から見ても、表情については今後もつと研究を要することと思はれます。

